

【諸艶大鑑（好色三代男）】

京都府立大学文学部＋京都府立京都学・歴彩館合同企画展示会

第六回 府大生∞歴彩館 コラボで探る京都学

— 京都府立大学の学生・大学院生が企画した歴彩館所蔵古典籍・資料展 —

私たち京都府立大学文学部と京都府立京都学・歴彩館は、各種の授業連携を通じて、歴彩館所蔵資料の調査・研究・活用を行っています。この展示は、文学部の各学科と歴彩館のコラボレーションの成果を広く公開するものです。学生たちが歴彩館資料の豊かさを多様な角度から紹介します。どうぞお楽しみください。

会期

令和5年12月16日(土)～令和6年1月7日(日)

休館日 令和5年12月28日(木)～令和6年1月4日(木)

時間 9時～18時 ※土日：9～17時

会場 京都府立京都学・歴彩館1階展示室 ※入場無料

主催 京都府立大学文学部 京都府立京都学・歴彩館

問合せ先 京都府立大学 学務課文学部事務担当

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1番地5 Tel (075) 703-5117

日本・中国文学科

京都の文学・文化と言えば、王朝風の雅な古典文学・文化というイメージですが、江戸時代になって日本で初めて通俗的な商業出版が京都で始まりました。当初は木活字を使って中国書（伏見版）や日本の古典文学（嵯峨本）などが上層階級向けに出版されましたが、その後、不特定多数の庶民向けに仮名草子や浮世草子などのエンタメ文学が京都で製作されます。浮世草子は西鶴本が有名ですが、江戸時代では京都の八文字屋（自笑）本の方に人気がありました。



『自笑楽日記』

欧米言語文化学科

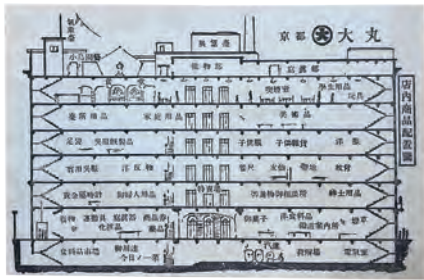
「ジャポニズムの根源—欧米から見た京都の文人たち」をテーマに、欧米人が松尾芭蕉や与謝蕪村、池大雅や石川丈山のような京都文人たちをどう捉えているかについての資料を紹介し、謎だらけだった日本という国の文化をどのように理解されていたのか、欧米にどのような影響を与えたのかを考察します。欧米における日本に対する固定概念の発達を京都の文人たちの視点から分析します。



『崎人伝』

歴史学科

歴史学科では、京都学・歴彩館と連携して歴彩館資料を活用した授業「日本文化史研究」を行っています。今年度の共通テーマは「京のおしごと」。学生が選んだ「二条城の修繕・管理」、「京の人形屋」、「法衣商」、「百貨店」の4つの切り口から、京都ならではの産業・職業・生業の歴史に迫ります。成果報告会 12月16日(土)13:00-14:30 歴彩館小ホール 展示解説(歴史学科) 12月21日(木)13:00-13:45 歴彩館1階展示室



「京都大丸店内配置図」(『上野家文書』より)

和食文化学科

醤油は和食の基本の調味料でありながら、あまりに身近すぎるのか、その製法や歴史をかえりみる機会はほとんどないといってよいでしょう。現在のような醤油が普及するのは江戸時代のことで、いったい醤油はどこで、どのようにして醸造されたのでしょうか。こうした疑問に答えるために、今回の展示では京都の醤油醸造業の推移をたどってみました。また、これからの調味料のあり方を考える基礎となるように、文献にもとづいて醤油の製法も紹介しています。



『京都醤油史蹟』

アクセス

- JR・近鉄京都駅、阪急烏丸駅から
京都市営地下鉄烏丸線「北山駅」下車(①出口)南へ徒歩約4分
- 京阪出町柳駅から
京都市バス1 府立大学前(北大路通)下車北へ徒歩約6分
- JR 二条駅から
京都市バス206 府立大学前(北大路通)下車北へ徒歩約6分

会場へは便利な京都市営地下鉄・市バスをご利用ください。

